

I am Pinocchio.  
I am a puppet.  
I was born in Italy.  
I go to school.  
I walk to school.  
I have a book and a notebook.  
I have a pencil, too.  
Now I want to go to the puppet show.  
I can go to school later.



とうとう English in Action の 4 冊目、Lesson 31 に入りました。これはデジタル教材になっているスライドの一つから抜粋しています。

テキストでは、ピノキオがページの半分以上を占めていますが、4 冊目のテキストを配られて手にした子どもたちは、直ぐに第 1 ページを開き、じっと見詰めています。そして、文字に目を移すと「読める！」と言い始めます。これは、English in Action 1 冊目の最後にあるヤギのお母さんとオオカミの自己紹介ととてもよく似ているのです。子どもたちは自己紹介ができるようになって、ヤギのお母さんの自己紹介も聞き取れ、オオカミが自己紹介をした後に子山羊たちが留守番をしているところへ出かけていくところまでも聞き取れていたことを思い出します。そうして、このピノキオの自己紹介が文字化されているのを見ると、「読める！」ということを発見し、口を動かし始めるのです。

まだ発音がおぼつかない子どももいるので、少し大きな声でリードするつもりで一緒に読みます。少し曖昧なところもあるけれど、最後の I can go to school later. まで読み終わると、「やったあ！」と声に出さなくても、達成感に満ちた、満足げな顔が並んでいます。勿論こちらの、それにも勝る満足した顔を見てくれているはずです。そこで CD でピノキオが自己紹介をしているところを聞かせます。デジタル版でしたら、ピノキオ君を子どもにクリックしてもらうこともできます。

4 冊目は、1 冊目で出会った内容の復習から始まり、少しずつ表現内容に色付けをしていきます。動詞には助動詞を加えて、～できる、～しなくちゃ、～多分そうだね、～もうやっちゃったよ、これから～するかもしれない、～をやっていたんだよ、などと、本当の気持ちは時間経過の事実をさらに正確に伝えられるようにし英語の表現を増やしてあります。子どもたちは、難しくなった、と思うより、事実を伝えられることでホッとすらすらしく、友だちの話を聞き取り、自分のことを進んで伝えようとしします。

そのような表現が知っているお話の中で展開されるので、気持ちが乗ってきて、お話の読み聞かせを子ども自身がやってみたい、と言う気持ちになります。そこで、初歩的ではありますが“朗読”を楽しめるようになります。そこに“読む”＝目で文字を追う作業が自然に始まるのです。